



資料館報

第 41 号

編 集 令和 3 年 3 月 31 日

発 行 高森町歴史民俗資料館
長野県下伊那郡高森町
下市田 2243
電話 (0265)35-7083

印 刷 (有) 雨宮印刷
電話 (0265)22-6027



北原遺跡出土土器

目 次

○あいさつ	2	●町民ギャラリー展等	
○令和 2 年度事業報告	3	○親子体験教室	8
○資料館委員会等の記録	4	○学校・地域との連携	8
○「時の駅」講座	5	○古文書整理・土器整理	8
○令和 2 年度企画展・特別展	6~7	○資料館 40 年の歩み	9~11
●五月人形と武具展		○研究調査報告・資料紹介	11~19
●開館 40 周年記念特別展「高森の昭和時代」		○令和 2 年度の記録	20~21
●棚田泰生展		○令和 2 年度資料寄贈者	22
●高森の弥生展		○お知らせ	22
～コメ作りが始まったころの高森～		○編集後記	22
●ひな人形・美人画展			

◎ ごあいさつ



高森町長 壬生照玄

新型コロナウイルス感染症は、私たちの生活に大きな変化をされました。これまであたり前のように行われていた地域の行事やイベントは縮小や自粛の決断を迫られ、毎年3月後半から4月上旬に五穀豊穣や疫病退散を祈り寺社に奉納される民俗芸能「獅子舞」も、2年続けて中止されることになってしまい、非常に残念でなりません。しかし、あたり前のことがあたり前でなくなると、これまで年中行事として行われてきた「獅子舞」などを継承していくということは、関わる皆さまのご努力、人々の絆のうえに成立っていると改めて感じます。

日本全体で人口減少、少子高齢化が進み、伝統芸能の担い手不足が各地で課題となり、さらにこのコロナ禍で大きな影響を受けることになってしまいましたが、こんな時だからこそ、それぞれの歴史的背景やなぜこうした文化がこの地で発展したかなどを学ぶことも必要かもしれません。町には「時の駅」という町の歴史や文化を知るための大きな財産があります。多くの町民の皆さまが、町の生き立ちの拠点である「時の駅」で学び、見識を深め、未来の高森町をつなぐ一員になっていただきたいと思います。

高森町が目指す将来像は「なりたいあなたに会えるまち」です。間もなく訪れるリニア新時代に向け、今は苦しい時ですが、町民の皆さまやそれぞれの地域が目指す姿に向かって今できることを考え、魅力あるまちづくりと一緒に進めていきましょう。



高森町教育長 帯刀昇

10月29日、飯伊地区の教育長部会現地研修会が高森町を会場に開催されました。研修の第一部では町民体育館で中学校の「しごと☆未来フェア」参観、第二部は「時の駅」にて芦部館長の講話と館内見学を行いました。他市町村の教育長からは、展示資料の質の高さ・豊富さ、見学者の目線に立った展示の仕方等、大変高い評価を頂きました。

さて、今年度は新型コロナの影響で縮小・延期など予定通りに実施できないこともありましたが、感染防止の工夫を凝らす中で町民の皆様に学びの場を提供することができました。来年度についても不確定な部分もございますが、「なりたい『あなた』に会えるまち」の将来像に向け、小中学生から大人に至るまですべての年代の町民の皆様が学び続け、地域の宝を後世につないでいく「時の駅」を目指し運営して参ります。

最後になりましたが、開館以来40年の長きに亘りお力添え、お支え頂きました多くの皆様方に感謝申し上げますとともに、これからも学びの拠点として、新たな視点も取り入れながら運営して参ることをお約束し、ご挨拶とさせていただきます。



資料館運営委員長 下沢貢

今年度も町民の皆様には、資料館「時の駅」の運営にご理解ご協力を賜り、衷心より感謝申し上げます。コロナ禍によって運営が翻弄されるところはございましたが、町の社会教育の拠点としての役割は果たすことができたと考えております。きめ細かな感染防止策により入館者数は減少する事態となりましたが、諸事業には工夫を加えて所期の目的を達成することができました。

「時の駅」第二講座では、郷土の偉人今村清之助に光を当て「今村清之助と証券界・明治経済」と題して、東京証券取引所の石田慈宏氏よりリモート形式で講演をいただきました。渋沢栄一と共に日本経済の先駆けとして大きな歯車を回した今村清之助には、更に光を当ててみたいと考えています。第三講座は「北原文化の魅力」と題して、初めて北原遺跡から高森の弥生文化に迫りました。また企画展・特別展も皆様のご協力により充実したものになりました。

さて今年度より館内下足化を実施しました。また懸案の館内空調設備も完了しました。より快適な「学びの場」となりましたので、より多くの皆様のご来館を心よりお待ちしております。

令和2年度 事業報告

館長 芦 部 公 一



高森町歴史民俗資料館「時の駅」は、新型コロナ禍で大変な状況の中、今年度の開館日を5月12日からとしましたが、町内外の多くの方々にご利用いただきご支援を賜りました。行事によっては中止、延期もあり皆様には大変ご迷惑もおかけいたしました。心より感謝申し上げ、ここに令和2年度の事業報告をさせていただきます。

(1) 企画展・特別展

- | | | |
|--|--------------|------|
| ①企画展「五月人形と武具展」(コロナ禍のため期間短縮) | (5月12日～6月5日) | 372名 |
| ②特別展「高森の昭和時代」 | (7月4日～8月30日) | 923名 |
| ③特別展「棚田泰生展」 | (9月1日～9月30日) | 620名 |
| ④特別展「高森の弥生展～コメ作りが始まったころの高森～」(11月1日～12月13日) | 987名 | |
| ⑤企画展「ひな人形・美人画展」 | (2月27日～4月4日) | 675名 |
| ⑥町民ギャラリー展(南小10月、北小2月) | | |

(2) 資料館講演会「時の駅」講座

新型コロナ感染予防対策で、会場を高森町福祉センターに移して実施した。9月12日はリモート講演会とした。

- | | |
|---|-----|
| ①第1講座 8月2日(日)「下伊那にたどる『漂泊の俳人 井上井月』」井上井月顕彰会理事 唐木孝治氏 | 34名 |
| ②第2講座 9月12日(土)「今村清之助と証券界・明治経済」 東証Rサポート部 石田慈宏氏 | 63名 |
| ③第3講座 11月1日(日)「段丘に農を営む～北原文化の魅力～」県立歴史館考古資料課長 町田勝則氏 | 46名 |

(3) 親子体験教室

- ①夏の親子体験教室(教委ブンカザイルキッズ連携も含む)

新型コロナの影響や、夏休みが短縮されたこともあり、夏休み明けに実施した。

- ・8月22日(土) 第1講座「富本銭レプリカ」・第2講座「糸取り・飾り紐作り」39名
- ・8月23日(日) 第3講座「勾玉作り」・第4講座「土器作り」 44名
- ・9月6日(土) 第5講座「トンボ玉作り」・第6講座「鎧エプロン作り」 22名
- ・12月6日(日) 親子体験教室 土器の野焼き 15名

- ②小正月飾り体験教室 1月11日(月) もち花・まゆ玉作りは資料館職員・役員で実施した。

(4) 古文書研究会

- ・新型コロナの影響で、9月より毎月第3木曜日に開催。1月、2月は休止した。(講師:吉沢章氏)
- ・3月18日(木)に山内尚己氏をお迎えしての特別研究会を行った。 参加者38名

(5) 高森町史を読む会

- ・新型コロナの影響で、5月より毎月第4木曜日に読み合わせ会を行ってきた。
- ・臨地学習会(吉田光専寺・南原遺跡等)を行った。 10月18日 19名
- ・3月27日(土)に伊坪達郎氏をお迎えしての特別講演会を行った。 参加者34名

(6) 委員会の活動

- ・資料館運営委員会 資料館の運営について協議 4回開催(小正月飾り作りで1回)
- ・資料館調査委員会 『高森の道』についての調査を開始 4回開催(小正月飾り作りへも参加)
- ・資料館活用委員会 1回 小中学校・図書館と、資料館活用方策等について協議(2回目は文書で)

(7) 学校連携事業

- ・資料館と学校が連携して授業を実施、資料貸与を行った。(P10参照)
- ・新型コロナの影響で、修学旅行先を変更した山本小学校6年生の歴史体験授業を受け入れた。

(8) その他の取り組み

- ①蚕の飼育・大正月飾り
- ②北原遺跡出土土器の整理作業(特別展に向けて)
- ③古文書整理作業 上市田「関川家文書」・吉田「中塚家文書」の整理と目録作りを進める。
関川家文書目録を刊行する。(手塚勝昭・矢沢篤・本島恭則各氏)

- ④刀の手入れ作業(中塚美弘氏)
- ⑤館内空調設置工事を行う。(1月～3月)
- ⑥芝桜花壇の造成を行う。(5月)

- ⑦初めて小学校へ入学した家庭に冊子「高森の人」を寄贈。

(9) 入館者数 5,857名(昭和54年開館から 265,972名)

見学はもちろん、多くの団体に施設を利用していただいた。(P20-21参照)

資料館 委員会等の記録

1. 資料館運営委員会

〈委 員〉

下沢 貢 座光寺 永子
北沢 彰利 北原 みどり
宮原 祐敬

〔運営委員会の主な活動〕

○定例委員会4回

- ・資料館「時の駅」の運営に関わりさまざまな提言をした。また、夏の親子体験教室の指導、小正月飾りづくりも行った。

2. 資料館調査委員会

〈委 員〉

(山 吹) 橋都 洋治・小平 国俊
(吉 田) 塚平 隆・中塚 敏彦
(下市田) 唐木 孝治・中村 忠敬
松村 一
(上市田) 林 祥三
(牛 牧) 加藤 清
(大島山) 佐々木 一寿
(出 原) 福沢 茂樹

〔調査委員会の主な活動〕

○定例委員会4回

- ・「記録に残していく『高森の道』」について、各地区で調査を継続し、さらに調査のまとめを冊子として残す方法を考えた。
(小正月飾りづくりでは、飾りつけの指導をした。)

3. 古文書研究会

〈組 織〉

会長 矢澤 篤(上市田)
副会長 松村 一(下市田)
会計 畑中 定喜(出原)
監事 手塚 勝昭(吉田)
講師 吉澤 章(飯田市)
顧問 原 次郎(下市田)
福島 壽子(下市田)
小林 正人(牛牧)
幹事 芦部 公一・小林 和子(資料館)
会員 28名(内12名は町外の会員)

〔活 動〕

○定例会(毎月第3木曜日)

- ・松尾芭蕉『奥の細道』を中心に、講師の吉澤さんに解説していただき読み深めた。7月の館外研修は、新型コロナウイルス感染拡大のため中止。

○古文書特別研究会

- ・3月18日、山内尚巳さんを講師に迎え、「古文書にみる伊那街道の宿駅保護とその剥奪～市田宿を中心にして～」のテーマで行った。



4. 高森町史を読む会

〈組 織〉

会長 松上 清志(下市田)
副会長 羽生 宏敬(下市田)
監事 北村 重信(牛牧)
会計 小林 和子(資料館)
会員 25名(内1名は町外の会員)

〔活 動〕

○定例会(毎月第4木曜日)

- ・6年目を迎えた町史を読む会では、「近世」の項目を読み進めた。臨地研修は新型コロナウイルス感染拡大のため中止。

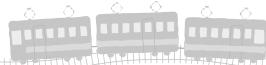
○特別講演会

- ・3月27日、伊坪達郎さんを講師に迎え、「飢饉・騒動と人々の生活～下市田村中村家文書を中心に～」と題しての講演を行った。

5. 資料館活用委員会

- ・高森南小学校、北小学校、高森中学校、高森町図書館の関係職員で構成し、年1回、資料館の有効活用について検討した。

21回目の「時の駅」講座



今年度は下記のような日程で、新型コロナウイルス感染拡大防止のため会場を高森町福祉センター大ホールに移し、第2講座は初のリモート形式で行いました。時の駅講座の講演記録は、資料館にあります。

第1講座『下伊那にたどる「漂泊の俳人 井上井月』』

8月2日 34名受講

講師：井上井月顕彰会理事

唐木 孝治 氏

井上井月の生涯と、彼が下伊那を歩いた足跡を紹介して下さり、そこから井月の人間像や生き方についてお話しいただきました。

井月の句碑が上伊那には60数基もあり、長岡にも8基あるのに、下伊那には1つもないのはおかしい。文学碑は「文化の置手紙」だから、下伊那にもぜひあるとよいと力説されました。



第2講座『今村清之助と証券界・明治経済』

9月12日 63名受講

講師：東京証券取引所

金融リテラシーサポート部

石田 慶宏 氏



高森町出身の今村清之助が、幕末開港後の横浜で、駒ヶ根市出身の田中平八らと生糸売込商や両替商として、時には危険な相場戦を挑むなどして大活躍する様子を熱っぽく語ってくださいました。

この頃の横浜は「日本のシリコンバレー」のような所で、彼らの活躍が黎明期の明治の日本経済に大きな役割を果たしたといわれ、改めて今村清之助の存在の大きさを教えられました。

第3講座『段丘に農を営む～北原文化の魅力～』

11月1日 46名受講

講師：長野県立歴史館考古資料課長

町田 勝則 氏

高森町の北原遺跡は弥生時代中期のかなり大きな集落で、特に注目されるのは石器であり、磨製石鎌や石包丁は全国的にも出土数量が際立っていることなど、伊那谷の弥生文化を象徴する遺跡だといわれました。300年近く大きな集落を維持できた農業のあり方など、今後の研究の着眼点を示してくださいました。



令和2年度企画展・特別展

企画展『五月人形と武具展』

5月12日～6月5日 入館者372名



今年はコロナ禍により期間を短縮して行いました。座光寺氏の甲冑や資料館寄託・所蔵の刀剣類を展示しました。

また、町内より寄贈いただいた五月人形や座敷幟・兜飾りなども展示しました。

特別展 資料館開館40周年『高森の昭和時代』

7月4日～8月30日 入館者923名



町民の方々からお借りした昭和を振り返る思い出の写真や、平成元年に当館が編集・出版した『高森百年の写真史』で使われた写真を中心に展示し、激動の高森の昭和史を振り返りました。あわせて昭和を象徴する生活用具や家電製品、教科書などの資料も多数展示しました。町民をはじめ多くの方に見ていただき、昭和の高森町を懐かしく振り返っていただけたようでした。

特別展『棚田泰生展』

9月1日～9月30日 入館者620名

棚田泰生は下市田出身の日本画家です。今回、棚田泰生の作品を10点ほど資料館に寄贈していただきました。中には「舞妓」「遊泳」など有名な作品も含まれています。その紹介を兼ね、それらの作品を中心に特別展を企画しました。



特別展『高森の弥生展』 ～コメ作りが始まったころの高森～

11月1日～12月13日
入館者987名

高森町には、北原遺跡や月夜平遺跡をはじめとして80か所ほどの遺跡が知られています。それらの遺跡から出土した遺物を展示しました。遺跡の数の多いことと、その多様な出土品に驚かれた方が多いようでした。県立歴史館の「弥生展」と同時開催とし、歴史館でも北原遺跡など高森の遺跡を取り上げてくれたので、タイムリーな展示となり、研究者をはじめ関心のある方が数多く見学されました。



企画展『ひな人形・ 美人画展』



2月27日～4月4日
入館者675名

恒例の「ひな人形と美人画展」。今年は、押絵ひなを展示ケースに置いて見ていただきました。また美人画は、階段を上らなくても見学できるようにと1階の町民ギャラリーで展示しました。



『町民ギャラリー展』 小中学生の作品展示(10月～2月)

夏の親子体験教室

今年の夏の親子体験教室は、新型コロナウイルスの流行により時期を遅らせるとともに人数制限を設けて実施しました。従来の5講座（富本鉢づくり・まゆから糸とり・勾玉づくり・土器づくり・トンボ玉づくり）に今年は鎧エプロンづくりの講座も加え、8月22日・23日、9月6日の3日間で計105名の皆さんに楽しんでいただきました。12月6日には、作った土器の野焼き体験も行い、15名のご家族が参加されました。

小正月飾りづくり体験教室は例年行ってきた餅つきや昼食会はやめ、飾りづくりだけを行うように計画し募集しましたが、新型コロナウイルスの感染拡大のためやむなく中止となりました。餅花・繭玉づくりは資料館職員と運営・調査委員で行いました。



学校・地域との連携

今年は新型コロナウイルスにより利用した学校数は減ってしまいましたが、町内の小中学校には変わらず利用していただきました。

- | | |
|--------------------|---------------------|
| ①高森南小学校6年生 歴史学習 | ⑥高森中学校1年生 地域巡り |
| ②高森北小学校クラブ活動 3回 | ⑦山本小学校6年生 修学旅行で体験学習 |
| ③高森北小学校6年生 歴史学習 | ⑧高森北小学校3年生 下市田学校の歴史 |
| ④高森北小学校3年生 昔の暮らし体験 | ⑨高森中学校職員 職員研修 |
| ⑤高森南小学校3年生 昔の暮らし体験 | |

◇ブンカザイルキッズの活動で、勾玉づくりを行いました。11月7日には31人、3月20日には19人と多くの人が参加してくれました。

◇資料館を毎月の定例会場として、短歌、俳句、源氏物語、音読など多くの団体にご利用いただきました。

資料館活動の様子

①古文書整理作業

資料館に寄託された関川家の文書約4,500点の整理作業が完了しました。来年度、文書目録を出版するとともにWebで公開する予定です。さらに吉田の中塚家の文書整理を行っています。

②土器整理作業

発掘された土器の復元作業や図面づくりを進め、堂垣外遺跡の報告書の完成をめざしています。



資料館40年の歩み(平成21年度～今和元年度)

*平成20年度までの歩みは、館報第20号と第30号にまとめられているので省略。

◇平成21年度

- 5/1 「五月人形と武具展」
- 7/1 特別展「高森の獅子舞」
- 7/4 時の駅講座① 橋都正氏
「瑠璃寺の獅子舞と高森町の獅子舞」
- 7/9 古文書研究会館外研修(松本市)
- 9/5 時の駅講座② 現地学習(光明寺)
- 9/30 資料館研修視察(中津川方面)
- 11/1 特別展「下伊那の国学と本学神社」
- 11/7 時の駅講座③ 木村喜久雄氏
「命～癌よりのメッセージ～」
- 3/3 「ひな人形と東京木目込み人形・美人画展」



H23伊達市の市田柿を学ぶ会の皆さん

◇平成22年度

- 5/1 「五月人形と武具展」
- 7/1 特別展「高森の和歌と歌碑」
- 7/3 時の駅講座① 小林正人氏「歌会始の話」
- 7/8 古文書研究会館外研修(諏訪市・茅野市)
- 9/4 時の駅講座② 現地学習(光専寺)
- 11/2 特別展「資料館所蔵書画展」
- 11/6 時の駅講座③ 近藤昭弘氏
「下伊那の養蚕業の現況と展望」
- 3/1 「ひな人形と美人画展」



H22武陵地現地学習

◇平成23年度

- 5/1 「五月人形と武具展・東京木目込み人形展」
- 7/1 特別展「平和展」
- 7/2 時の駅講座① 吉川博人氏
「信濃乃宮 宗良親王とその周辺」
- 7/7 古文書研究会館外研修(新居関跡・二川宿)
- 9/3 時の駅講座② 手塚勝昭氏
「国学四大人を祀る本学神社と女性勤王家松尾多勢子」
- 10/22 時の駅講座③ 市瀬一至氏
「松岡城址にあるお寺～雲龍山松源寺～」
- 11/1 特別展「白河藩と南山」
- 3/1 「ひな人形と美人画展」

◇平成24年度

- 5/2 「五月人形と武具展・東京木目込み人形展」
- 7/1 特別展「原城とその周辺」
- 7/5 古文書研究会館外研修
(海津資料館・木曾三川・桑名海藏寺)
- 7/7 富本銭特別展示
- 7/7 時の駅講座① 松島高根氏
「ここまでわかった原城」
- 9/1 時の駅講座② 小林正人氏
「古刹明永寺の歴史と宝物」
- 10/3 資料館研修視察
(奈良文化財研究所・飛鳥池工房)
- 10/20 時の駅講座③ 塩澤孝氏
「産業組合と生糸販売組合大正館」
- 11/1 特別展「高森町の養蚕」
- 3/1 「ひな人形と美人画展」

◇平成25年度

- 5/1 「五月人形と武具展・東京木目込み人形展」
- 7/1 特別展「山吹藩主座光寺氏展」
- 7/6 時の駅講座① 寺沢義登氏
「地名からみた旧村の生い立ち」
- 7/11 古文書研究会館外研修(伊那部宿・高遠)
- 8/9 「ミニ平和展」
- 8/31 時の駅講座② 塚平増男氏
「吉田の里の今昔」
- 9/3 特別展「松岡氏展」「成田青畔遺作展」
- 10/19 時の駅講座③ 竹内昭一氏
「下伊那助郷の変遷と和宮の東下」
- 11/1 特別展「伊那街道と中馬」
- 3/1 「ひな人形と美人画展」

◇平成26年度

- 5/1 「五月人形と武具展・東京木目込み人形展」
 7/1 特別展「高森の学校教育」
 7/5 時の駅講座① 宮原祐敬氏
 「耕文小校の興りと変遷」
 7/10 古文書研究会館外研修（遠山谷）
 8/19 「ミニ平和展～高森町の満州移民～」
 9/2 特別展「北原龍太郎遺作展」
 9/6 時の駅講座② 田戸純市氏
 「終戦の年のあの日、あの頃」
 10/1 資料館研修視察
 （京都市荷田春満・松尾多勢子関連地）
 10/18 時の駅講座③ 北村重信氏
 「悲劇の木曾馬2000年の足跡」
 11/1 特別展「郷土の作家展」
 11/22 特別講演会 山田博章氏
 「宮下正美先生の功績を尋ねて」
 3/1 「ひな人形と美人画展」



H26 ツクイデイサービスの皆さん

◇平成27年度

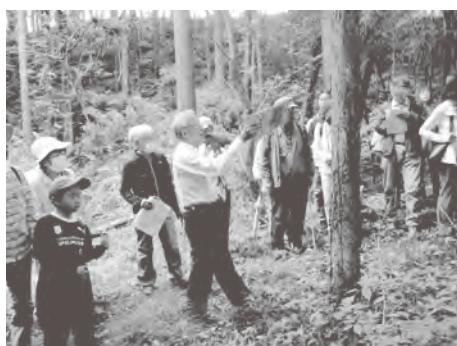
- 5/1 「五月人形と武具展・東京木目込み人形展」
 7/7 特別展「矢沢遺跡発掘調査報告展」
 7/11 時の駅講座① 酒井幸則氏
 「矢沢遺跡の発掘現場から見えてきたもの」
 7/14 古文書研究会館外研修（下條村・天龍村）
 8/13 「ミニ平和展」
 ～戦後70年戦争一色であった生活を振り返る～
 9/1 特別展「ひつじ満水から三百年」
 9/5 時の駅講座② 松島信幸氏
 「ひつじ満水の現場を歩く」
 9/30 資料館研修視察（中津川方面）
 11/3 特別展「本学神社をつくった人たちの明治」
 11/21 時の駅講座③ 松上清志氏
 「本学神社をつくった人たちの明治」
 3/3 「ひな人形と美人画展」

◇平成28年度

- 5/1 「五月人形と武具展・東京木目込み人形展」
 7/1 特別展
 「大河ドラマおんな城主伊直虎と高森」
 7/2 時の駅講座① 瀧本慈宗氏
 「瑠璃寺の獅子舞～その物語をかたる～」
 7/15 古文書研究会館外研修（飯島町）
 8/19 「ミニ平和展～高森町の満州移民～」
 9/3 特別講座 梓澤要氏
 「松岡氏と井伊氏 伊那と遠江をつなぐ絆」
 9/6 特別展「資料館所蔵作品展」
 10/4 資料館研修視察（群馬県の城館跡・博物館）
 10/22 時の駅講座② 清水迪夫氏
 「伊那自由大学と高森～大正期の下伊那青年運動～」
 11/1 特別展「ほかいびと井上井月と下伊那」
 11/26 時の駅講座③ 本島恭則氏
 「井上井月と下伊那～残された日記より知れること～」
 3/1 「ひな人形と美人画展」

◇平成29年度

- 4/25 「五月人形と武具展」
 5/5 特別講座 小和田哲男氏
 「井伊直虎と直親～亀之状時代の松源寺・松岡城」
 7/11 特別展「亀之状・直虎をめぐる群像」
 7/15 時の駅講座① 芦部公一氏
 「古代の高森の姿～伊那郡衙成立前後の様相を中心として～」
 7/21 古文書研究会館外研修
 （松川町・駒ヶ根市・宮田村）
 8/25 「ミニ平和展～戦争に翻弄された人々～」
 9/1 特別展
 「明治の夜明けに挑んだ出原の今村清之助」
 9/2 時の駅講座② 矢澤篤氏
 「白河藩市田陣屋と南山一揆」
 11/1 特別展
 「華麗な立川流彫刻を生み出した人たち」
 11/11 時の駅講座③ 立川芳郎尚富氏
 「立川流の変遷と匠たち」
 3/1 「ひな人形と美人画展」



H29 小和田哲夫氏による松岡城の説明

◇平成30年度

- 4/24 「五月人形と武具展」
 7/3 特別展
 「増野原開拓70年～満州から未開の増野原へ～」
 7/7 時の駅講座① 寺沢秀文氏
 「満蒙開拓の史実から学ぶこと」
 7/20 古文書研究会館外研修（安曇野市・大町市）
 9/1 特別展「資料館所蔵作品展」
 9/8 時の駅講座② 伊澤宏爾氏・橋都とみ子氏
 「国際理解学習のすすめ」
 10/4 資料館研修視察
 （国立歴史民俗博物館・伊能忠敬記念館）
 11/3 特別展
 「暴れ天龍を治める～惣兵衛堤防の時代～」
 11/24 時の駅講座③ 伊藤修氏
 「天竜川上中流域の水神信仰と治水」
 3/1 「ひな人形と美人画展」

◇令和元年度

- 4/2 「富壽神寶出土速報展」
 4/26 「五月人形と武具展」
 7/2 特別展
 「高森の伝統芸能～その創造と継承～」
 7/7 時の駅講座① 櫻井弘人氏
 「南信州の獅子舞～大型練り獅子の誕生と展開～」
 7/18 古文書研究会館外研修（青木村・上田市）
 8/18 「ミニ平和展
 ～戦時下の国民学校時代の教育を考える～」
 9/14 時の駅講座② 北沢彰利氏
 「同時代を生きた郷土の作家 宮下正美と椋鳩十」
 10/1 「千早原遺跡速報展」
 11/2 特別展「土製耳飾りとその時代」
 11/24 時の駅講座③ 百瀬長秀氏
 「土製耳飾りの時代」
 1/7 「新春大槻四郎展」
 3/18 「ひな人形と美人画展」

研究調査報告・資料紹介 館長 芦部公一**1.◆北原遺跡（積善会館・町道建設）出土土器について**

未報告である平成17～18年、積善会館・町道建設に伴い調査された「北原遺跡」の出土土器について、「高森の弥生展」で展示したものを中心に紹介します。（文中の「SB」というのは「住居跡」という意味の略号）

今回報告する北原遺跡出土土器は、今から2,100年～2,000年前の弥生時代中期後半中葉から後葉（北原2式）とされています。昭和45～46年の調査や、飯田市座光寺の恒川遺跡などでもこの時期のものが報告されています。

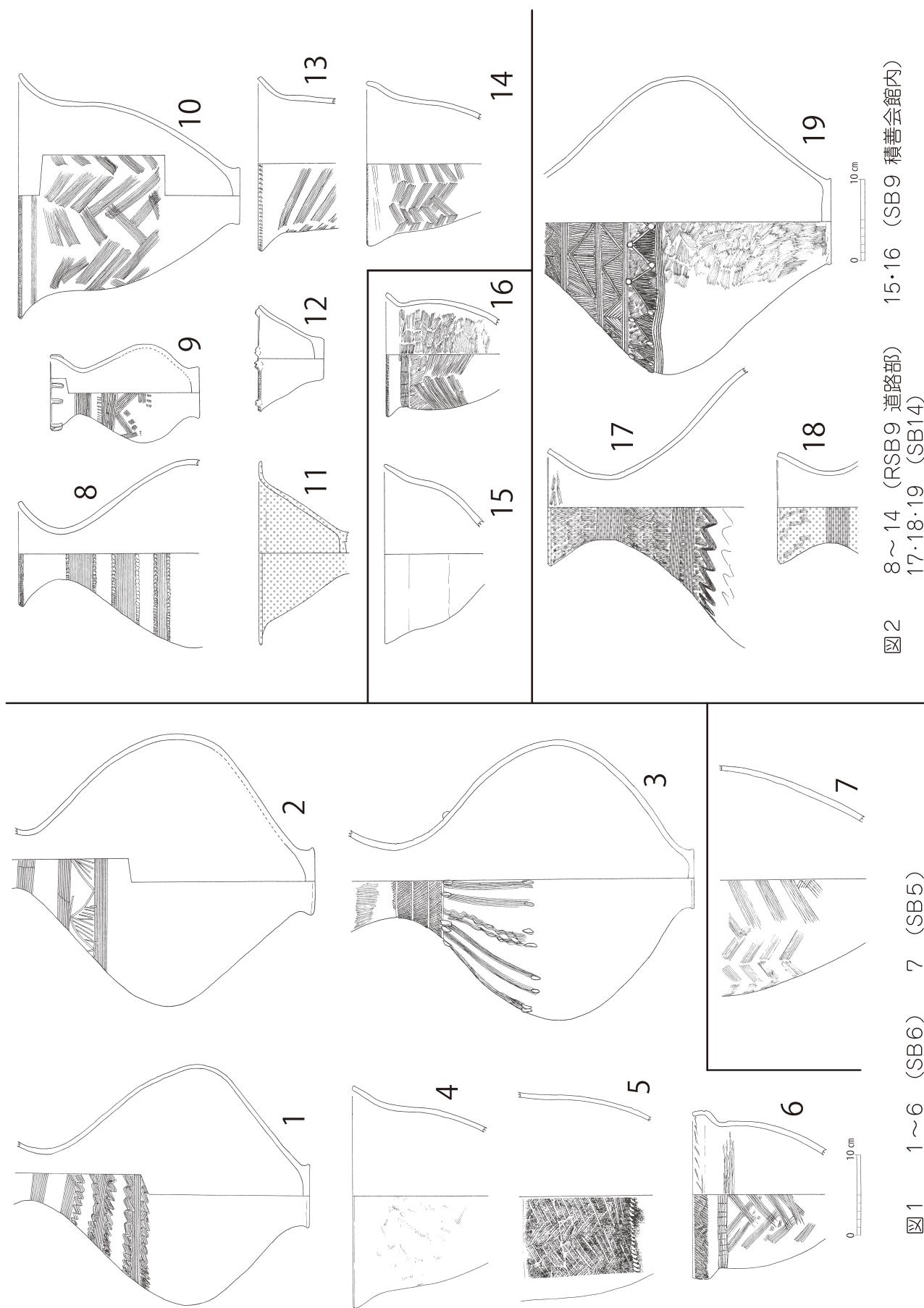
出土土器等からSB15がやや古く、SB6、SB14がやや新しくなると考えられます。また、今まで北原式では高坏の存在が明確ではありませんでしたが、RSB9（町道部分）に出土した高坏（図2-11）は、初めて確認されたものです。

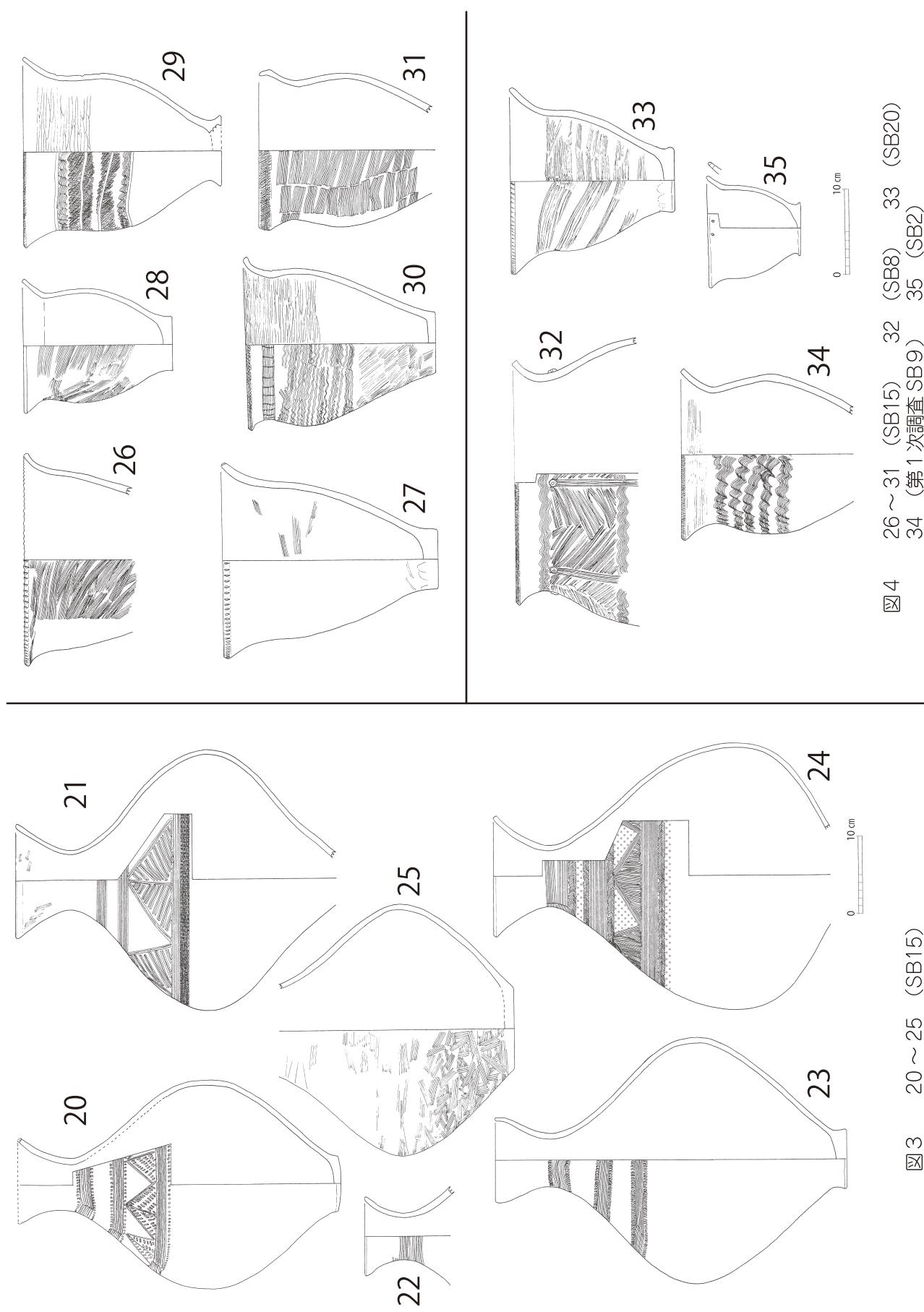
積善会館建設、関連町道建設にかかわっては弥生時代中期後半の住居跡が30軒以上確認されており、これから整理作業によってはさらに新たな発見があるかもしれません。また、周辺には多くの住居跡が残されている（100軒以上ともいわれる）と考えられ、この時代を知る上でも大変重要な場所になります。

表1 弥生時代遺構出土土器観察表（北原遺跡：積善会館/町道関係）

遺構	No.	器形	法量(cm)				手法上の特徴			胎 土	焼成	色 調		残 存	備 考
			口径	胴径	底部径	器高	外 面	内 面	文 様			内面	外 面		
SB2	35	小型 壺形	13.0	11.0	6.3	10.8	ナデ調整	ナデ調整	無文	砂粒子含	良好	暗褐色	赤褐色	口縁部3/4残存 退部ほぼ残存	口縁部に2穴
SB5	7	壺形	—	28.8	—	—	ナデ調整	ナデ調整	胸部彫描綴羽状文	砂粒子含	良好	赤褐色	茶褐色	胴下半部全周	炉堀
SB6	1	壺形	—	29.9	7.9	—	ナデ調整	剥離顯著	櫛描横線文4段 櫛描波状文5段	砂粒子多含	普通	黒褐色	茶褐色	頸部以上欠損 胴部上半1/5残存 胴部下半4/5残存	底部布目压痕
	2	壺形	—	33.9	8.5	—	ナデ調整 ヘラミガキ	剥離顯著	櫛描横線文3段 ヘラ描連續山形文+ ヘラ描継線・斜線文	砂粒子多含	良好	赤褐色	暗褐色	頸部以上欠損 胴部4/5残存	底部木葉压痕
	3	壺形	—	35.0	7.5	—	頸部刷毛調整 胸部ナデ調整	剥離顯著	肩部繩文地紋+ヘラ描横線 胸部櫛描継線・波状線+貼り 付け浮文	砂粒子含	普通	黒褐色	明褐色	口縁部欠損 頸部9割残存 胴部1/3残存	
	4	壺形	26.8	22.0	—	—	ナデ調整	ナデ	口唇部無文 櫛描單斜条線	砂粒子多含 石英	普通	暗褐色	暗褐色	胴上部8割残存	口縁部径最大型
	5	壺形	—	25.6	—	—	刷毛調整	ヘラミガキ	櫛描横線文 櫛描綴羽状文 胴下部連續刺突文	砂粒子含	良好	赤褐色	赤褐色	胴部のみ全周	
	6	壺形	20.6	18.2	—	—	ナデ調整	ナデ・ヘラミ ガキ	口唇部無文 口縁部繩文+棒波線文1条 頸部彫描簾状文 胴部櫛描綴羽状文	砂粒子多含 石英	普通	灰褐色	灰褐色	胴部3/4残存	口縁部受口

SB8	32	甕形	28.0	—	—	—	ナデ調整	ナデ	口唇部繩文 頸部彫描波状文 円形貼付浮文+彫描縦線文8 単位	砂粒子含多	良好	明褐色	明褐色	口縁部～肩部9割残存	文様の類例無し
RSB9 <small>(町道部分)</small>	8	壺形	12.6	—	—	—	ナデ調整	剥離顯著 ナデ	口唇部繩文 頸部彫描横線文2条×2 二股工具連續刺突文6条 彫描横線文1条	砂粒子含	良好	白褐色	赤褐色	口縁部1/2残存 胴部1/3残存	口縁部外反
	9	小型壺形	8.9	12.2	6.0	18.3	ナデ調整	ナデ	口唇部細刻目 頸部彫描横線文 胴部彫描横線文2条 彫描山形文+彫描単線文 彫刻突簾状文	砂粒子含	良好	赤褐色	赤褐色	口縁部9割残存 胴部4割・程武全存	木葉底
	10	甕形	30.0	23.0	7.0	27.2	ナデ調整	ナデ調整	口唇部繩文 口縁部浅い彫描横線文 胴部彫描羽状文	砂粒子少	良好	濃褐色	黒褐色	口縁部1/6残存 胴部1/4残存	底部布目圧痕
	11	高坏	22.8	—	—	—	ナデ調整	ナデ調整	全体赤彩	砂粒子含	良好	明褐色	明褐色	応援部1/8座mm存 杯部4/5残存	北原で初めて確認 脚部欠損
	12	鉢型	12.8	8.8	4.8	7.5	ナデ調整 ミガキ	ナデ調整	口唇部繩文	砂粒子含	良好	赤褐色	明褐色	口縁部1/2残存 胴部残存	
	13	甕形	21.0	16.0	—	—	ナデ調整	ナデ調整	口唇部キザミ目 胴部彫描斜線文	砂粒子含	良好	暗褐色	黒褐色	口縁部わざか 胴部1/3残存	
	14	甕形	19.6	16.0	—	—	ナデ調整	ナデ調整	口唇部繩文 胴部彫描縦羽状文	砂粒子含	良好	暗褐色	赤褐色	口縁・胴部1/2残存	口縁部やや内彎
SB9 <small>積善会館</small>	15	鉢型	22.0	18.0	—	—	ナデ調整	ナデ調整	無文	砂粒子含	良好	赤褐色	赤褐色	口縁部1/4残存	外面スス不着
	16	甕形	14.8	13.6	—	—	刷毛目調整	ナデ・刷毛	口唇部繩文 頸部彫描簾状文 胴部彫描縦羽状文	砂粒子含	良好	赤褐色	赤褐色	口縁・胴部2/3残存	口縁外反
SB14	17	壺形	14.0	—	—	—	刷毛目調整	剥離顯著 ナデ	頸部彫描横線文 ヘラ彫波状文2条 肩部彫描横線文2段 彫描波状文2段か 口縁部～肩部朱彩	砂粒子含	普通	灰褐色	灰褐色	口縁～頸部1/2残存 肩部1/4残存	口縁部外反
	18	壺形	12.8	—	—	—	刷毛目調整	剥離顯著 ナデ	頸部彫描横線文2段 口縁部～肩部朱彩	砂粒子含 石英大	普通	灰褐色	灰褐色	口縁～頸部1/2残存	口縁部やや内彎
	19	壺形	—	36.4	10.5	—	刷毛目調整	剥離顯著	肩部繩文+ヘラ彫波状文2条 彫描横線文2段 ヘラ彫連続山形文 円形貼付浮文	砂粒子含 石英大	良好	茶褐色	赤褐色	頸部以上欠損 胴部上半周残存 胴部下半1/2残存	底部細かい布目圧痕
SB15	20	壺形	11.2	27.2	7.2	—	ナデ調整	剥離顯著 ナデ	棒状工具連續刺突文5 彫描横線文3段 ヘラ彫連続山形文+ ヘラ彫列点文	砂粒子含	普通	茶褐色	茶褐色	頸部3/4残存 肩部～胴上部 残存 胴下半部1/3残存	口縁部は外反する 布目圧痕底部
	21	壺形	14.6	33.6	—	—	ナデ調整	横ナデ	彫描横線文 ヘラ彫連続山形文+ ヘラ彫縦線斜線文 彫描簾状文	砂粒子含	良好	赤褐色	赤褐色	口縁部1/3残存 肩部全周 胴部上半2/3残存 胴部下半1/4残存	口縁部は外反する
	22	壺形	10.2	—	—	—	ナデ調整	ナデ調整 剥離顯著	頸部彫描横線文4段	砂粒子含	普通	褐色	赤褐色	口縁部1/2残存 頸部全周	
	23	壺形	10.8	31.6	7.6	45.3	ナデ調整	ナデ 剥離が顯著	箇状連續刺突文+ 彫描横線文 3段	砂粒子含	良好	黄褐色	赤褐色	頸部2/3残存 肩部ほぼ全存 胴部下半1/2残存	口縁部はわざかに内彎する
	24	壺形	15.2	34.4	—	—	ナデ調整	ナデ 口縁部ミガキ	彫描横線文3段 彫描羽状文 彫描連續山形文+ 彫描縦線文+朱彩 頸部・胴部朱彩あり	砂粒子含	良好	赤褐色	赤褐色	口唇部わざかに残存 頸部全周 胴部1/2残存 底部欠損	口縁部は外反する
	25	壺形	—	32.4	10.4	—	横ナデ	(ナデ) 剥離 顯著	無文 刷毛目	砂粒子含	良好	赤褐色	茶褐色	頸部以上欠損 胴部1/5残存	
	26	甕形	22.6	20.0	—	—	ナデ調整	刷毛目調整	口唇部キザミ目 胴部刷毛目	砂粒子含	良好	暗褐色	褐色	口縁部1/2残存	外面スス付着
	27	甕形	22.8	17.8	7.0	25.0	ナデ調整	ナデ調整	口唇部ヘラキザミ目 無文	砂粒子含	良好	赤褐色	赤褐色	口縁部1/2残存 胴部1/2残存	底部布目圧痕
	28	甕形	15.8	13.4	6.4	17.5	刷毛目調整	ナデ調整	無文 刷毛目のみ 底部 木の葉圧痕	砂粒子含	良好	赤褐色	赤褐色	全存	最大径は口縁部
	29	甕形	22.4	18.6	8.2	23.2	ナデ調整	ナデ調整 ヘラミガキ	口唇部繩文 地文繩文+ ヘラ彫横線 彫描波状文	砂粒子含	良好	茶褐色	暗褐色	口縁部1/2残存 胴部3/4残存 底部1/5残存	最大径は口縁部
SB20	30	甕形	20.8	19.4	7.0	22.2	ナデ調整 ヘラミガキ	ヘラミガキ ナデ	口唇部繩文 頸部彫描簾状文 彫描波状文	砂粒子含	良好	褐色	黄褐色	口縁部1/3残存 胴部4/5残存	
	31	甕形	18.2	18.0	—	—	ナデ調整	ナデ ヘラミガキ	口縁部繩文 彫描連續横線文	砂粒子含	良好	黒褐色	暗褐色	口縁部3/4残存 胴部1/4残存	口縁部が内彎 内外面にスス付着
SB20	33	甕形	23.6	16.6	7.0	19.3	ナデ調整	ナデ+刷毛目	口縁部刻目 胴部草状单斜条痕	砂粒子含	良好	明褐色	明褐色	ほぼ残存	スス付着布目圧痕底 部
1次 SB9	34	甕形	19.6	18.8	—	—	ナデ調整	ナデ調整	口唇部繩文 頸部無文 胴部彫描波状文	砂粒子含	良好	暗褐色	茶褐色	底部欠損 口縁部胴部1/3残存	外面スス付着 昭和46,47年調査住居 跡





2.◆特別展「高森の昭和時代」の概要を報告します。

高森の昭和時代—前史：大正時代—

大正デモクラシーと米騒動

養蚕で支えられる市田村、山吹村

■大正3年(1914)、第1次世界大戦がはじまると、日本は日英同盟によって、イギリス・フランス・ロシアを中心とする連合国側につき参戦しました。

■この戦争によって、日本経済は好況となり(大戦景気)、綿織物などの日本製品の輸出先がアジア、アフリカに広がる一方、欧米からの輸入が途絶えたため重化学工業が発展し、工業国としての基盤が築かれました。

しかし、好景気による物価上昇に加え、大正7年(1918)のシベリア出兵を契機とした米の買い占めにより、米

家族:近所が捕って蘭搔き
(大正6年)



山吹 城子久雄さん提供

価が大幅に上昇したため、米騒動が全国に広がりました。

■市田村・山吹村では、明治の中頃より養蚕の研究が盛んになり、次第に主力産業になっていきました。

■大正2年(1913)～6年(1917)には、市田村、山吹村に組合製糸が誕生します。山吹には大正館、吉田には信陽館、下市田には市田館、牛牧には滝里館ができました。

大正館(大正2年)



山吹 橋都平一さん提供

また、大正9年(1920)には郡下

24組合を統合して有限会社下伊那生糸販売組合連合会「伊那社」が設立さ

れて、下市田、吉田、牛牧の組合も参加しました。

■大正5年(1916)には伊那電気会社により、市田、山吹両村に電燈が点灯完了しました。また、大正12年(1924)には伊那電気鉄道が山吹、市田、座光寺まで開通しました。市田駅と上市田をつなぐ村道上市田線も開設されました。

■政党政治、普通選挙法が成立した大正時代はデモクラシーが唱えられ、自由主義の風潮が高まった時代でした。



伊那電鉄 市田まで開通
(大正12年)高森百年の写真史

一昭和元年～昭和9年—

不況が農村を直撃する

市田村、山吹村も昭和恐慌時代

■第1次世界大戦後の日本経済は、好況という時期がほ

とんどなく、さらに、大正12年(1923)の関東大震災で大きな打撃を受けます。加えて、昭和4年(1929)アメリカで始まった世界恐慌により、日本経済は深刻な不況に追い込まれます。

■農村では、生活を支えていた「まゆ」や農産物の価格の暴落が人々の暮らしを圧迫します。養蚕業中心の長野県経済も大打撃を受けます。



蚕のテント飼育(屋外)
(昭和初期)塚平増男さん提供

■市田村の労農同盟準備会は、村長

に対して税金の減免、負担金の全廃などの要求を提出しています。市田村では、昭和4年(1929)不況対策として金融改善委員会、負債整理組合を設けて金融改善実行、農業生産物の自給自足化を計画する一方、困窮民には施米、給食などを行いました。また山吹村では、昭和5年(1930)村税の軽減、教育費の節約、修学旅行の中止、村吏員、教員の給与一割寄附などを行いました。

■市田村では生活苦のために村外へ出稼ぎをする人も多く、昭和9年(1934)の調査では1,298人の人たちが出稼ぎっていました。県内では平野村(現岡谷市)の製糸工場が多く、県外では東京府が過半数を占めていました。また、海外に活路を見出そうとした人たちも増え始めています。

■中国大陸では昭和6年(1931)関東軍の引き起こした満州事変を契機に昭和7年(1932)満州國を建国し大陸での権益を主張します。国際連盟はこれを認めず、日本は昭和8年(1933)国際連盟を脱退し国際的な孤立を深め、時代は徐々に「戦争」へと傾いていきます。

一昭和10年～昭和15年—

日中戦争と強まる戦時体制

市田・山吹村からも大陸・満州へ

■満州を支配下に置いた日本は、中国北部に侵入し、昭和12年(1937)7月の盧溝橋付近での武力衝突をきっかけにして日中戦争が起こりました。日中戦争が長引く中で、日本政府は国民を戦争に動員する「戦時体制」を強めています。そして、国民精神総動員運動を展開して、昭和13年(1938)、国家総動員法を公布、国の産業や経済、国民の生活すべてを戦争に動員できる体制を確立しました。

■昭和15年(1940)には举国一致の体制を作る新体制運動が高まる中で、ほとんどの政党や団体は解散して、国民を戦争に動員する機関として結成された大政翼賛会に組み込まれていきました。

■中国大陸での戦争が激しくなる中、昭和12年（1937）市田村では国防婦人会が組織され、出征兵士の慰問や残された家族の世話などを行った

たり、盧溝橋事件で市田、山吹から多数が応召したりしました。

昭和14年（1939）

には学童の勤労奉仕が始まり、市田、山吹両校の学童や職員は農家へ勤労奉仕に出勤しました。また、昭和11年（1936）から始まった満蒙開拓へは市田、山吹から多くの人々が参加しました。戦争の長期化とともに国民生活は困窮していきます。



**市田駅から出征する（昭和10年代）
「出砂原のあゆみ」から**

市田駅から出征する（昭和10年代）
「出砂原のあゆみ」から

一昭和16年～昭和20年—

戦時下での耐乏生活と終戦

大きな犠牲を払った市田・山吹

■中国との戦争を続ける日本はイギリス、フランスの植民地がある東南アジアへ進出し、石油やゴムなどの資源を獲得しようとした。大東亜共栄圏の建設です。これに対してアメリカはイギリス、オランダ、中国を巻き込んでの経済封鎖「ABCD 包囲陣」で対抗しました。

■追い込まれた日本は昭和16年（1941）12月8日、アメリカ、イギリスを相手に太平洋戦争に突入しました。国内では、軍需品の生産が優先され、砂糖、マッチ、木炭など生活品は切符制、米は配給制となり、それも次第に不足していきます。さらに戦争の長期化により学徒出陣、勤労動員など国民の動員が強められました。小学校は国民学校と名を変え、情報は政府の統制下に置かれ、国民は苦しい生活に耐えて戦争に協力しました。

■戦時下の市田村、山吹村でも戦争に出動した人は2千人近くになりました。また、生活は苦しく、新天地を求める国策の満蒙開拓団に加わったり、松島親造の自由移民、満蒙開拓青少年義勇軍に参加したりして大陸に渡った人もいました。いずれも大きな犠牲を払うことになりました。

■戦争末期の昭和20年（1945）、市田には軍需工場（大日本時計：現平和時計）が、山吹には豊橋陸軍病院が疎開してきました。いずれも終戦によって本格的な稼働には至りませんでした。

■昭和18年（1943）のガダルカナルの敗北、昭和19年（1944）のサイパン島の陥落をうけ、本土への空襲が激しくなります。昭和20年（1945）3月には東京大空襲、沖縄での激しい戦いがあり、ポツダム宣言を受諾しなかったため、8月には広島と長崎に原子爆弾が投下され、さ

らに、ソ連も日ソ中立条約を破って満州や朝鮮に侵攻しました。ようやく日本はポツダム宣言を受け入れ無条件降伏、8月15日、昭和天皇がラジオ放送（玉音放送）でそのことを国民に告げました。こうして国民が大きな犠牲を払った第2次世界大戦、太平洋戦争が終結しました。

一昭和21年～昭和30年—

戦後日本の復興と独立

市田村、山吹村合併へ動きだす

■戦争は国民生活に壊滅的な打撃を与えました。物価は急上昇、復員兵や引揚者で人口が増え、失業者があふれました。食糧不足は深刻で、農村へ買出しに出かけたり闇市に出かけたりして飢えをしのぎました。

■GHQの占領下、日本では多くの戦後改革が行われました。非軍事化、民主化に取り組みました。昭和21年（1946）日本国憲法の制定をはじめ、教育基本法の制定、女性の参政権、経済面では財閥解体、農村では農地改革などが行われ、戦前の体制が大きく変わりました。

■昭和25年（1950）には朝鮮戦争が勃発し、日本経済は戦争特需で復興していきます。昭和27年（1952）、サンフランシスコ平和条約が発効し、日本は独立を果たしました。

■市田、山吹でも食糧不足は深刻で、小学校の校庭などを掘り起こして食糧増産に励みました。また、県外の開拓地へ出かける人もいました。昭和22年・24年（1947・1949）には戦後の緊急開拓事業で山吹の増野原へ入植した人もいました。また、農地改革は市田、山吹でも行われ、多くの自作農が誕生しました。

■昭和28年（1953）、町村合併促進法により村々では合併の機運が高まります。紆余曲折があったものの、市田村、山吹村両村は合併に向けて大きく動き出します。



**校庭を畑に（昭和20年）
牛牧 松村敦さん提供**

一昭和31年～昭和49年—

高度経済成長で経済大国へ

高森町誕生 三六災害を乗り越え前進

■日本経済は昭和30年（1955）から昭和48年（1973）まで、年平均で10%程度の成長を続けました。昭和43年（1968）には、国民総生産がアメリカに次ぐ世界第2位になります。国民生活は豊かになり、家庭にはテレビ、冷蔵庫、洗濯機などの家電製品や自動車が普及し、高速道路、新幹線が開通し、昭和39年（1964）には東京オリンピックが開催されました。さらに、家庭にはいわゆる3C（カ

ラーテレビ、自動車、クーラー)が普及し、高校、大学進学率も向上します。しかし、高度経済成長は大気汚染や水質汚濁の公害問題も引き起こしました。

■昭和48年(1973)、第4次中東戦争を契機に石油価格の高騰を招き(石油危機)不況となり高度経済成長は終わりますが、いち早く乗り切った日本は、経済大国への歩みを進めていきます。

■昭和28年(1953)に施行された町村合併促進法により市田・山吹両村に於いても昭和32年(1957)3月、合併促進協議会がもたれ、諸々の手続き

を経て6月18日に市田村長塩沢伝兵衛、山吹村長城子半三両氏による合併調印式、7月1日に新生高森町が誕生しました。

町名は、両村を山頂で結ぶ「本高森山」に由来しています。

■市田村との合併協議が進んでいる昭和32年2月、北部の松川町から山吹村への対等合併の話を持ち上りました。かつて旧大島村と共に里見村を形成していた山吹村北部地区は松川町との合併へ、南部は市田村との合併へと、議会も二分しましたが、市田村との合併を賛成多数で議決し、山吹村と市田村の合併が実現しました。高森町が誕生した後、反対派の運動は激しくなり、税金の集団滞納、有線放送への加入拒否、学童の集団休校という事態も生じました。

■昭和34年(1959)、県の調停案を受け入れて、旧山吹村の第1次開拓、増野の一部、郷頭、原城地区を松川町へ編入することでこの問題に終止符を打つことができたのです。その後、原城地区11戸は昭和43年(1968)、高森町へ復帰しました。

■昭和36年(1961)の豪雨災害は未曾有の被害をもたらしましたが、町を挙げて復旧作業に取り組み、昭和39年(1964)にはほぼ復旧を終えました。高森中学校や高森北小学校、みつば保育園、吉田保育園、山吹支所、高森町福祉センターなどの公共施設も竣工しました。また、町道中央線開通や国道153号線の延伸、昭和47年(1973)からは中央自動車道西宮線高森地区の工事も始まりました。高度経済成長のもと、新生高森町も新しい時代に向けて動き出しました。

一昭和50年～昭和64年— 経済大国の実現とバブル経済 町制30周年、益々発展する高森町

■第1次石油危機以降、世界経済が停滞する中で、日本は自動車や電気機械、ICなどのハイテク産業が輸出を伸ばし、欧米先進諸国に比べて高い経済成長を維持していました。



中央自動車道全通(昭57年)
高森百年の写真史

また、中国自動車道・東北自動車道・関越自動車道など高速道路網が整備され、昭和50年(1975)の山陽新幹線に続き、昭和57年(1982)には東北・上越新幹線が、昭和63年(1988)には青函トンネルと瀬戸大橋が開通し、北海道、本州、四国、九州が陸路で結ばれました。

成田には新東京国際空港が開港し国際化が進展しました。

■世界のGNP(国民総生産)に占める日本の比重は、昭和55年(1980)には10%にも達し、日本はまさに経済大国となり、国際的地位が高まりました。昭和62年(1987)からの内需拡大による好景気は、地価や株価の異常な高騰を伴うもので、後に「バブル経済」と呼ばれることになりました。

■高森町では昭和51年(1976)には高森町役場新庁舎が完成、その後町民運動場、高森町歴史民俗資料館、町民体育館、高森南小学校校舎、中央公民館、大丸山公園、中央公園など町の公共施設が充実していきます。また、山吹や下市田には工業団地ができ、出砂原には厚生連診療所が開設し、高森町発展の基盤が整備されていきました。

■昭和57年(1982)には中央道西宮線は全線開通して、首都圏・中京圏・関西圏とのつながりが強くなり、観光や経済面で大きな変化をもたらすことになりました。昭和30年代には年間10万もの観光客があった「天竜舟下り」は観光客の激減により昭和60年(1985)市田港は閉鎖されました。

■昭和62年(1987)には高森町は合併30周年を迎え、ますます発展していくことになります。

※提供者が分かる写真はお名前を、わからないものは掲載書名を入れました。

※参考文献

「高森町史 下巻」	高森町史刊行会	昭和50年
「高森百年の写真史」	高森町歴史民俗資料館	平成元年
「高森町歴史年表」	高森町歴史民俗資料館	昭和56年
「出砂原のあゆみ」	出砂原自治会	平成10年
「高森南小学校沿革史」	高森南小学校	昭和60年
「高森北小学校百年史」	高森北小学校	昭和57年
「高森中学校五十周年記念誌」	高森中学校	平成26年
「詳説日本史B」	山川出版社	平成28年



出砂原球場開設（昭和5）現在の厚生病院の場所にありました。伊那電鉄が経営していました。〈高森百年の写真史〉



昭和劇場（昭和5～23）市田駅の東側にありました。この後には映画館が建てられたそうです。〈田口正幸さん〉



明神橋鋼鉄橋へ（昭和6）市田駅開通で、竜東からの需要が高まり、木製橋から架けかえられました。〈木村昌之さん〉



凍み豆腐作り（昭和10）上市田の人々が集まっています。上市田橋が見えます。〈北原みどりさん〉



昭和劇場入口付近（昭和15）当時の出砂原商店街の様子が分かります。奥が天竜川です。〈久保田写真館〉



満蒙開拓青少年義勇軍壮行式（昭和17）多くの人に見送られての壮行式です。満州国旗も見えます。〈高森百年の写真史〉



女性の竹やり訓練（昭和17）戦時下、銃後の守り。女性も訓練に駆り出されました。〈岡本国さん〉



安養寺金属供出回収（昭和16）戦時下、軍の金属不足解消のため、寺の梵鐘、銅金をはじめあらゆる金属が回収されました。〈中村忠敬さん〉



校庭を畠に開墾（昭和20）戦後の深刻な食糧不足。校庭も畠になりました。芋の収穫でしょうか。〈松村敦さん〉



ごちそうは五平餅（昭和18）戦時下の耐久生活。今夜のごちそうは五平餅です。うれしいな～。。〈松村敦さん〉



山吹中学校完成（昭和28）山吹小学校校舎との共用から独立して2階建て校舎が新築されました。〈高森北小学校百年史〉



市田中学校完成（昭和27）昭和24年より新制中学校が小原に建設されました。写真は昭和39年。〈高森中学校五十周年記念誌〉



高森南小学校旧校舎（昭和51ころ）昭和8年に完成。この後、昭和55年に新校舎が完成します。〈高森南小学校沿革史〉



高森北小学校旧校舎（昭和39）明治37年に建設されて以来増改築してきた校舎。昭和48年に新校舎完成。〈高森北小学校百年史〉



36災害発生（昭和36）大島川の氾濫、天竜川の氾濫。天竜社市田工場は土砂に埋もれてしまいました。〈高森百年の写真史〉



36災害発生（昭和36）山吹田沢川の氾濫です。尊い命が失われた未曾有の大災害でした。〈高森百年の写真史〉



天竜舟下り市田港川開き（昭和32）最盛期には年間10万人の観光客。高速道開通で観客減。60年に閉鎖されました。〈百年写真史〉



高森北小学校の鼓笛隊（昭和40）11月3日の町民運動会北会場で披露されました。〈高森北小学校百年史〉



国道を渡る小学生（昭和41）国道が大島川まで開通しました。出砂原の交差点を渡る子どもたちです。〈高森町公民館〉



中央道杭打ち（昭和43）上市田の伊勢神社西側での町長さんの杭打ちです。高速時代の到来です。〈高森百年の写真史〉



国道153号延伸（昭和48）小沼地籍の工事の様子です。国道が松川町まで延伸していました。〈高森百年の写真史〉



旧高森町役場（昭和40年代）昭和51年に新庁舎が竣工し移転。昭和54年、ここに資料館を建設。〈高森百年の写真史〉



高森町役場建設現場（昭和50）現在の高森役場庁舎が建設されました。奥にあるのは現福祉センターです。〈高森町公民館〉



高森町福祉センター竣工（昭和49）現在の場所に検察。まだ役場庁舎はありません。〈高森町公民館〉



中央公民館竣工（昭和60）現在の場所に検察。町民体育館なども含め、多くの町の施設が整いました。〈高森町公民館〉



胡麻目大橋の建設（昭和60）町道中央線の回収で建設されました。市田と山吹が早く結ばれました。〈高森町公民館〉



天伯公園でのスケート授業（昭和60）天伯公園がオープンしました。当時はスケートができました。〈高森町公民館〉



高森中学校自転車教室（昭和60）中学校でも交通安全のための自転車教室があったのです。〈高森町公民館〉



高森町町政30周年（昭和62）町制30周年記念のふるさと祭り。式典での町長の挨拶。〈高森町公民館〉

※ ※ ※ 令和2年度の記録 ※ ※ ※

利 用 団 体 名 称 と 人 数		
4月	町内	新型コロナウイルス感染拡大防止により、受け入れ中止
	町外	新型コロナウイルス感染拡大防止により、受け入れ中止
5月	町内	高森南小6年生(87) 高森町史学会幹事会(15) 高森町史を読む会総会(21)
	町外	なし
6月	町内	高森南小6年生(29) 高森町史を読む会(20) 資料館調査委員会(10) 清里歌会(9) 白夜短歌会(9) 井上井月顕彰会(6) 音読の会(6) ヨガの会(7) ひだまりの会(4) 牛牧歌会(4) 源氏物語講読会(9) シニア大学短歌会(8)
	町外	なし
7月	町内	高森中学校職員研修(26) 源氏物語講読会(13) 気楽の会(5) シニア大学短歌会(9) ひだまりの会(5) きさらぎ会(6) 高森町史学会幹事会(18) 高森町史を読む会(15) 音読の会(4) 滝里歌会(11) 白夜短歌会(8) 牛牧歌会(6)
	町外	なし
8月	町内	高森キッズサイエンス(37) 源氏物語講読会(5) 音読の会(6) 高森自由大学(27) 高森町史を読む会(18) 第1回時の駅講座(34) 白夜短歌会(9) ひだまりの会(3) 滝里歌会(10) 気楽の会(7) 牛牧歌会(6) 親子体験教室(83)
	町外	下伊那退職校長会(13)
9月	町内	シニア大学郷土歴史(12) 第2回時の駅講座(63) 牛牧歌会(6) 親子体験教室(22) 資料館調査委員会(11) 井上井月下伊那支部(10) 音読の会(5) 古文書研究会(23) 高森北小クラブ(9) 源氏物語講読会(11) 資料館運営委員会(4) ひだまりの会(6) きさらぎ会(7) 白夜短歌会(9) 高森町史を読む会(20) 滝里歌会(10)
	町外	なし



お蚕さまに桑をやる子どもたち（7月）



山本小6年生の修学旅行（11月）



刀の手入れをする中塙美弘さん（12月）



大正月飾りづくり（12月）

利 用 団 体 名 称 と 人 数		
10月	町内	高森中1年生地域巡り(184) 高森町史を読む会現地見学(19) 高森熱中小学校(33) 高森キッズサイエンス(33) 高森自由大学(22) 牛牧歌会(5) 高森北小3年生(23) 高森シニア大学打合せ(6) 高森北小クラブ(18) 源氏物語講読会(5) 気楽の会(4) 吉田史学会(3) 古文書研究会(19) 白夜短歌会(7) 清里歌会(10) きさらぎ会(7) 井上井月下伊那支部(7) 高森町史学会幹事会(13) ひだまりの会(7)
	町外	松本まるごと博物館友の会(23) 飯伊教育長部会研修会(18) 諏訪史談会研修会(8)
11月	町内	井上井月下伊那支部(5) ブンカザイルキッズ(31) 白夜短歌会(10) 牛牧歌会(6) 第3回時の駅講座(46) 高森町史を読む会(17) 源氏物語講読会(5) 気楽の会(5) きさらぎ会(5) ひだまりの会(4) 滝里歌会(10) 下市田史談会(9) 音読の会(8) 高森北小6年生(21) 古文書研究会(18)
	町外	山本小6年生(41)
12月	町内	源氏物語講読会(10) 高森町史学会幹事会(14) 高森南小3年生(128) 音読の会(6) 井上井月学習会(5) 高森町史を読む会(17) 高森北小3年生(24) 高森少年野球(7) きさらぎ会(6) 下市田史談会(7) 牛牧歌会(6) 高森自由大学(18) 白夜短歌会(8) 気楽の会(6) 土器焼(15) 古文書研究会(20) 吉田史学会(5) 滝里歌会(11)
	町外	なし
1月	町内	清里歌会(10) 気楽の会(17) 音読の会(4) 白夜短歌会(6) 牛牧歌会(6) 小正月飾りづくり教室(15)
	町外	なし
2月	町内	南信州BC(50) 源氏物語講読会(7) きさらぎ会(5) 気楽の会(7) 白夜短歌会(7) 滝里歌会(10) 高森町史を読む会(16) 高森自由大学(6) 高森町史学会役員会(3) 井上井月学習会(8) 牛牧歌会(7) 音読の会(6)
	町外	なし
3月	町内	
	町外	



高森南小3年生の昔の暮らし体験(12月)

調査委員の皆さんによる
小正月飾りづくり(1月)完成した小正月飾りと
運営委員の皆さん(1月)

土器整理(3月)

入館者数：令和2年度及び昭和54年11月の開館以降の累計

★令和2年度	5,857名(町内 4,837名 町外 1,020名)
★開館以降の累計	265,972名(町内 208,566名 町外 57,406名)

令和2年度 資料寄贈者御芳名

品名	寄贈者	品名	寄贈者
棚田泰生画伯絵画10点	飯田市 武井清彦	下伊那漁業協同組合会員章(昭和17年)	山吹 高野正延
大槻四郎画伯絵画10点他	吉田 中塚文昭	養蚕にかかる器具一式	喬木村 仲田武夫
大槻四郎画伯絵画「石仏B」	松川町 山上恵美子	七五三道具一式	吉田 中塚洋子
南山一件文書(上中下)	吉田 片桐ふ志江	ゴルフクラブセット他	下市田 平サク
本学神社由来	山吹 竹内要二	和裁用裁縫台	山吹 宮澤和子
飯田高等女学校教科書他	横浜市 飯塚路子	足踏みミシン他	下市田 伊奈川みよ子
満洲事変写真帖他	吉田 大沢章雄	任天堂アーリーコンピュータ・ソフト	上市田 橋本涉
古銭・紙幣(戦前～戦後)	下市田 尾野和子	名古屋無電テレビ工業社製計算機	下市田 清水衆

令和2年度寄贈本一覧

創作伝説『胡蝶の舞』	宮原祐敬	松本市文化財調査報告 235～238,240	松本市教育委員会
郷土日本画家遺作集他4冊	唐沢哲男	城の前遺跡発掘調査報告書他1冊	東御市教育委員会
信州飯島 八百年のミステリー	飯島紘	図録「棚田泰生遺作展」25冊	飯田市 桜井栄治
抜萃のつづり その八十	樋口マヒラ	令和2年度企画展 稲作とクニの誕生	長野県立歴史館
宮下本 熊谷家伝記 (飯田市歴史研究所)	吉田ゆり子 (飯田市歴史研究所)	今井敬潤著『柿』 中村不折	法政大学出版会 長野県立歴史館

資料館寄託資料

増野新切遺跡出土 縄文時代中期後葉土偶	下伊那教育会	白髭神社俳句奉額(明治18年掲額)	白髭神社 (総代長 小平英人)
大槻四郎画伯絵画「北濤」	上市田区	本学神社にかかる文書他	宮島通夫
秋葉講関係資料	小川浩之		

資料館からのお知らせ

1 古文書研究会・高森町史を読む会 会員募集

◇資料館「時の駅」では、「古文書研究会」(毎月第3木曜)と「高森町史を読む会」(毎月第4木曜)を行っております。それぞれ、20余名の皆様での学習会になります。どちらの会も、一緒に参加して下さる方の加入をお待ちしております。年度途中でも構いません、興味のある皆様、ぜひご連絡ください。(資料館「時の駅」TEL:35-7083)



2 古文書・古い資料を捨てないで、資料館にぜひ一報を!

◇皆さんのお家に眠っている古文書類などの古い資料は、歴史を解き明かす大事な、大事なものであります。今まで「古いもので何だかわからない」と燃やされてしまった例を耳にします。大変残念です。

江戸時代・明治時代の古文書類はもちろん、古い書籍、写真、軍事郵便などの戦前の資料等々「捨てる、燃やす前に資料館へ一報を、相談を!」お願いいたします。大切に活用させていただきます。

編集後記

当資料館も今年度はコロナ禍により来館者数の大幅減少、行事や活動の中止・変更に揺れた1年でした。そうした中で、特別展や企画展、時の駅講座など長く続いてきた活動が今年も計画通りできたことは、多くの皆様のおかげであり何よりだったと思います。また厳しい制限の時期もありましたが、親子体験学習にたくさんの方が参加して下さったり、放課後に資料館に寄ってくれる子どもたちの声が聞こえることはうれしい限りです。来年度は、平常の資料館活動に少しでも戻ってくれることを願ってやみません。(塩澤元広)